

実践報告

札幌市立北の沢小学校

(1) 研究内容

研究課題：サッポロピリカコタンを活用した探究学習の研究

- 豊かな体験や深く考える場・実践する場を通して、生命と人権を尊重する心に基づく人間関係の確立や社会性を育成する。
- 自然や人間の尊さを知り、他者理解や自分らしく生きることの大切さ、心の優しさ・情操を育成する。

(2) 実践の内容

【実践①】サッポロピリカコタンで学ぶ「自然と人の共生の心」（4年社会科）

○ ねらい

アイヌの人たちの歴史や文化を学び、自然と共に生活するという生き方について理解を深める。

◇ 札幌市アイヌ文化交流センターの展示物や施設の見学を通して、アイヌ文化と歴史に関する理解を深める。

◇ 生活財や民具等の実物に触れたり、歌や踊り、子ども遊びを体験したりする活動を通じてアイヌ文化に親しむ。

◇ 講師の方から歴史や文化、言葉、自然と共生した生き方や考え方に関する講話を聞き、人権意識の確立を図る。

○ 学習内容

① 4年社会科「昔から今へと続くまちづくり」における中単元「アイヌの人たちの生活と文化」および総合的な学習の時間と関連させて、アイヌ民族の自然観や衣食住に関する調べ学習を進める中で、歴史や文化について理解する。また、アイヌ文化交流センターの活動プログラムを知り、訪問見学の準備をする。

② 資料や副読本等を活用し、簡単なアイヌの言葉を学び、その言葉に込められた意味から自然と人のつながりについて考える。

③ アイヌ文様を切り絵で表現する活動を通じ、その構成の美しさや紋様に込められた意味について学ぶ。

④ ①～③の学習の深化を図るため札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」での体験プログラムを活用した体験学習を行う。

- ・ 歌や踊り、子ども遊びを体験する活動
- ・ 講師の方からアイヌ民族の歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識を高める。
- ・ 館内見学で展示物や民具の実物に触れたり、体験したりしな



楽器の紹介と歌謡の鑑賞



舞踊の体験



民具や道具、伝統衣服の見学



歴史の森でコタンの様子を見学

がら、アイヌ文化と歴史、自然との共生の考え方について理解する。

- ⑤ 学習した内容を「アイヌの人たちの文化に親しもう」というテーマでレポートにまとめ、交流・発信する。



学習した内容をグループ同士で交流

【実践②】道徳の内容項目別教材と人権教育の連携について

○30年度から本格実施している「特別の教科 道徳」の内容項目別教材を、人権教育の視点から関連するものを整理し、各学年の実践に生かせるよう取り組んできた。

視 点	内 容 項 目	学年と「道徳」教科書（光村図書）の当該教材					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
A：自分自身に関すること	個性の伸長	18, 33	7, 25	7, 18	1, 15	18	4
B：人との関わりに関する こと	親切・思いやり	14, 29	2, 17	16, 29	9, 31	22, 28	15, 32
	友情・信頼	3, 25	8, 22	5, 20	2, 13	14, 19	13, 21
	相互理解・寛容			15, 21	17, 32	4, 21	10, 23
C：集団や社会との関わり に関すること	公正・公平、社会正義	20, 30	16, 32	14, 30	14, 30	5, 31	14, 29
	国際理解・国際親善	31	30	27	26	27	27, 30
D：生命や自然、崇高なも のとの関わりに関する こと	生命の尊さ	4, 16, 32	4, 23, 33	3, 9, 17	4, 24, 33	6, 25, 32	12, 25, 31
	感動・畏敬の念	22	26	31	25	12	24
	よりよく生きる喜び					35	1, 35

*この他に、6年：題材2「世界人権宣言から学ぼう」（規則の尊重）

(3) 研究のまとめ

① 成果

○サッポロピリカコタンにおける午前の体験活動プログラム（人とのふれあいから学ぶ：講話・鑑賞・体験・引率見学・質疑など）と、午後のグループ見学・調べ学習（自分で向き合い学ぶ：学習テーマに基づき館内展示室や屋外展示を巡り、探究する活動）の組合せは大変効果的で、アイヌ文化への理解を深めることができた。

② 課題

◇道徳の内容項目教材との関連はある程度明らかに出来たが、35教材で35時間分設定されている教科書で学習する道徳科の時間に適宜発展的に盛り込むことは時数確保上、難しい場合もある。人権意識の涵養やその理解と実践に関わる学習を生活科・総合的な学習の時間、社会科、家庭科、学級活動など教科を関連させながら学習指導計画を設定する必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

◎挨拶やもの、ことの名前、地名などの言葉、アイヌ文様の切り紙、民話の絵本、踊りや子ども遊び、楽器や民具などを児童の学びの入口として多様に設定し、体験することがアイヌの人々の文化や歴史、自然観の理解にとても有効である。